

2年数学予習シート ■複素数とその演算■

2-1

複素数

有理数とは、_____数であり、無理数とは_____な数である。有理数と無理数を合わせた数を_____という。

$ax + b = 0$ という形をした1次方程式が「解なし」となることはないが、2次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ のときは、「解なし」となる場合があった。それは、判別式 D について、 $D \boxed{} 0$ が成り立つときである。

簡単な例で言えば、2次方程式

$$x^2 = 1$$

は解をもつが ($x = \pm 1$),

$$x^2 = -1$$

は解をもたない。2つ目の方程式が解をもたないのは、**2乗して-1になる実数が存在しないから**である。

そこで、2乗して-1になるような**新しい数**を1つ考える。これを_____と書き、**虚数単位**と呼ぶ。つまり、 $i^2 = -1$ となる数を考えることになる。

この新しい数を、実数と組み合わせてできる $2i$, $5 + 3i$, $\frac{1}{2} - \sqrt{3}i$ のような数を、すなわち
 $a + bi$ (a, b は実数)

の形で表される数を考え、これを_____という。 a をその_____といい、 b をその_____という。

とくに $b = 0$ のときは、 $a + 0i = a$ と表すことにして、実数は複素数の特別な場合であって、実数の集合は複素数の集合に含まれることになる。

$b \neq 0$ のとき、複素数 $a + bi$ は実数ではない。このような複素数を_____といいう。

とくに $a = 0$ のときは、 $0 + bi = bi$ となり、この形の虚数を_____といいう。

次の条件を満たすとき、複素数は**等しい**といいう。

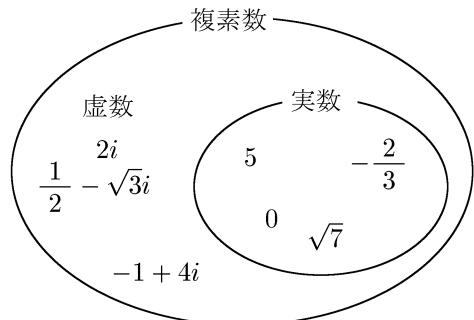
● 複素数の相等 ●

a, b, c, d が実数のとき、

$$a + bi = c + di \iff a = c, b = d$$

とくに、

$$a + bi = 0 \iff a = 0, b = 0$$



問題 1 次の等式を満たす実数 a, b の値を求めよ。

$$(1) (a + 3) + (b - 1)i = 0$$

$$(2) (a + b) + (a - b)i = 1 + 5i$$

(吉教科書 p.69 問 1)

複素数の計算

複素数の四則演算では $a + bi$ を、通常の文字式 $a + bx$ のように扱って計算し、 i^2 が出てきたら -1 に置き換える。

例 1 和	$(1+3i) + (2+4i) = 3+7i$	差	$(5+3i) - (3-2i) = 2+5i$
積	$(3+2i)(2-i) = 6 + (-3+4)i - 2i^2$	累乗	$(1+3i)^2 = 1+6i+9i^2$
	$= 6+i-2\cdot(-1)$		$= 1+6i+9\cdot(-1)$
	$= 8+i$		$= -8+6i$

問題2 次の計算をせよ。

(吉教科書 p.69 問2, 3)

(1) $(2+3i) + (-8+2i)$	(2) $(4-3i) - (-1-2i)$	(3) $(\sqrt{2}i)^2$
(4) $(-\sqrt{2}i)^2$	(5) $(2-i)(1+4i)$	(6) $(\sqrt{3}+i)(1-\sqrt{3}i)$

複素数 $\alpha = a + bi$ に対して、虚部の符号を変えた複素数 $a - bi$ のことを、 α の _____といい、 $\bar{\alpha}$ とかく。

問題3 次の複素数と共役な複素数をいえ。

(吉教科書 p.70 問4)

(1) $2+3i$	(2) $-1-\sqrt{5}$	(3) $\sqrt{2}i$	(4) -7
------------	-------------------	-----------------	----------

(ヒント: (3) は $0+\sqrt{2}i$, (4) は $-7+0i$ と見ることができる)**例 2** 分母に複素数があるときは、その共役複素数を分子と分母の両方にかけて、分母を実数にする。

$$\text{商 } (3+4i) \div (1+2i) = \frac{3+4i}{1+2i} = \frac{(3+4i)(1-2i)}{(1+2i)(1-2i)} = \frac{3-2i-8i^2}{1-4i^2} = \frac{11-2i}{5} = \frac{11}{5} - \frac{2}{5}i$$

問題4 次の計算をせよ。

(吉教科書 p.70 問5)

(1) $\frac{1}{i}$	(2) $\frac{3+i}{2i}$	(3) $\frac{2+i}{2-i}$	(4) $\frac{1}{2+\sqrt{3}i}$
-------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------------

複素数の四則演算について、2つの複素数の和、差、積、商は、また複素数となる。

また、実数の場合と同様に、加法、乗法について、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つ。

さらに、複素数 α, β についても、次のことが成り立つ。

$$\alpha\beta = 0 \text{ ならば } \alpha = 0 \text{ または } \beta = 0$$

なお、複素数においては、大小関係は考えない。